

北広島町神楽振興計画

平成27（2015）年2月

広島県北広島町

目 次

I. はじめに	1
II. 調査概要	2
III. 調査結果	
1. 北広島町の神楽団一覧	3
2. 神楽団の氏神神社一覧	5
3. 保持演目一覧	7
4. 団員構成	11
5. 練習状況・団員募集状況	12
6. 上演状況	15
7. 神楽に対する団の活動方針や考え	23
8. 活動上の負担や悩み	24
9. 団のウリや強み、アピールポイント	25
10. 北広島町で神楽を観光資源として活用することについて	26
11. 神楽団独自の公演など	27
12. 北広島町の神楽振興計画についての自由意見	28
13. ヒアリング調査内容の要約	31
IV. 課題と今後の施策	
1. 調査結果からみた神楽団をとりまく社会環境・現状そして課題	34
2. 北広島町神楽振興計画の目的と施策	
(1) 北広島町神楽振興計画の目的	35
3. 目標と施策	37
(1) 神楽団の存続・繁栄	
① 後継者の確保・育成	37
② 活動環境の向上と動機付与	38
(2) 神楽産業の振興	
① 観光資源化・大衆化	39
(3) 神楽文化による社会関係資本醸成と住民の生活の質向上	40
(4) 神楽情報発信拠点施設の整備	41

I. はじめに

神楽は多くの町民が関わる伝統芸能として町内に広く伝承され、地域コミュニティの醸成、交流の促進、地域振興等の役割を果たしており、この計画書は北広島町が今後の神楽の保存・伝承・振興施策を実施していく上での指針とするため策定しました。

北広島町(西中国山地)に伝わる神楽は古き良き時代の優雅な「伝統を守る舞」と新しい時代に対応する「創作的な舞」とがお互いに刺激しあいながら伝承されています。

近年、神楽は、広島県の芸北地方・島根県の石見地方の郷土芸能という歴史的な背景を越え、観光資源としての価値ある日本の民俗芸能へと成長してきました。

そして公演される内容も、競演・共演、また各種催し物でのアトラクションと様々な形態において年中行われ、公演会場も広島市を始めとして都市部に広がり、更に関西・関東や海外へも招待公演などの依頼が来るようになってきました。しかし、一方で神楽を取り巻く様々な環境変化がみられ、各団各様の活動課題を抱えるようになってきました。

この計画書を策定するに当たり神楽団の現状と課題について、神楽団へのアンケート調査及びヒアリング調査によって把握しました。それらの調査結果を踏まえ町内に現存する神楽が将来に向かって保存・伝承され、そして神楽を通じて元気な地域を創造するための施策を計画いたしました。

これらの施策を実施し、神楽を通じて地域コミュニティが維持され、この町に暮らしている人々が自信と誇りを持ち暮らしていける町を実現させたいと思います。

最後にこの計画策定にあたってご協力いただきました北広島町神楽協議会の役員の皆様、アンケート調査・ヒアリングにご協力くださいました各神楽団、神楽に関わる関係者の皆様方に厚くお礼申し上げます。

平成 27(2015)年 2 月

北広島町長 箕野博司

Ⅱ．調査概要

- ◇調査題目：北広島町神楽団現況調査

- ◇調査目的：北広島町内における神楽団の実態を把握し、神楽振興計画策定のための基礎資料とすることを目的として実施

- ◇調査内容：神楽団の基本情報、団員構成、保持演目、練習状況、団員募集状況、上演状況、神楽に対する団の活動方針や考え、活動上の負担や悩み、団のウリや強み、北広島町で神楽を観光資源として活用することについての考え

- ◇調査方法：北広島町内の神楽団体（54団体）に調査票を郵送し、2週間後、Fax、E-mail、郵送で回収しました。

- ◇調査期間：平成25（2013）年11月27日～12月25日
再送 平成26（2014）年1月10日～1月24日

- ◇回収率：85.2%（46団体／54団体）

- ◇調査主体：NPO 広島神楽芸術研究所（調査責任者：増田恵二）

Ⅲ. 調査結果

1. 北広島町の神楽団一覧

整理番号	団体名	継承区分	〒	住 所	発足時期
1027	阿坂神楽団	高田系八調子 矢上系六調子	731-1222	北広島町阿坂2884-2	江戸
1028	今吉田神楽団	矢上系石見神楽、 阿須那系石見神楽	731-1221	北広島町今吉田1380-3	昭和21年8月
1029	上石神楽団	石見神楽	731-1702	北広島町上石	明治33年
1030	琴庄神楽団	石見神楽	731-1712	北広島町都志見	昭和48年
1031	戸谷神楽団	石見神楽	731-1711	北広島町戸谷	明治初期
1032	中原神楽団		731-1706	北広島町中原	
1033	西宗神楽団	石見神楽	731-1705	北広島町西宗248	
1035	吉木神楽団		731-1223	北広島町吉木4029	明治34年
1036	龍南神楽団		731-1712	北広島町都志見	嘉永6年
1037	上川戸神楽団	石見神楽	731-1501	北広島町川戸215-3	昭和初期
1038	中川戸神楽団	石見神楽	731-1501	北広島町川戸	明治7年
1039	曙神楽団	芸北神楽	731-1501	北広島町川戸5281	明治初期
1040	蔵迫神楽団		731-1502	北広島町蔵迫	
1041	八重西神楽団	石見神楽矢上係・ 阿須那系	731-1504	北広島町寺原3718	明治初期
1042	春木神楽団		731-1531	北広島町春木	江戸時代
1043	今田神楽団	広島神楽	731-1535	北広島町今田	明治時代
1044	有田神楽団	石見神楽	731-1533	北広島町有田94	江戸時代
1045	東山神楽団		731-1525	北広島町石井谷904	昭和34年
1046	山王神楽団		731-1526	北広島町本地	明治中期
1047	本地中組神楽団		731-1526	北広島町本地	明治終期
1048	上本地神楽団	石見神楽	731-1526	北広島町本地4302-1	明治10年
1049	砂庭神楽団	石見神楽	731-1515	北広島町壬生658	江戸1804年
1050	川西神楽団				
1051	河内神楽団	石見神楽 阿須那系	731-1511	北広島町惣森	大正6年
1052	旭神楽団	芸北神楽	731-1523	北広島町南方1645	不明
1054	朝間神楽団	石見神楽 (旧舞)	731-2104	北広島町大朝524-2	
1055	後津神楽団	矢上系旧舞 高田舞	731-2106	北広島町後津	江戸1842年
1056	枝之宮神楽団	矢上系山根流	731-2104	北広島町大朝6	大正時代

1057	大塚神楽団		731-2107	北広島町大塚283	明治30年頃
1060	郷之崎神楽団	石見神楽	731-2103	北広島町新庄	1860年
1061	小枝神楽団	石見神楽矢上系 旧舞	731-2104	北広島町大朝6181-2	
1062	小市馬神楽団	石見神楽 (山根流)	731-2104	北広島町大朝1660-1	明治時代
1064	磐前神楽団	矢上系六調子	731-2101	北広島町宮迫	明治時代
1065	本谷神楽団				
1066	宮迫神楽団				
1067	宮之庄神楽団		731-2103	北広島町新庄	不明(新舞: 昭和25年~)
1068	八栄神楽団		731-2102	北広島町岩戸	
1069	富士神楽団	石見神楽	731-2104	北広島町大朝	明治時代
1070	平田神楽団				
1072	市神楽団	石見神楽 (旧舞)	731-2103	北広島町新庄	
1073	雲月女性神楽同好会		731-2317	北広島町苜屋形264-1	平成10年9月
1074	長尾組神楽団	石見神楽	731-2552	北広島町西八幡原	天保年間 190年位前
1075	田尾組神楽団	石見神楽	731-2551	北広島町東八幡原	天保年間
1076	雄鹿原上組神楽団	石見神楽 (旧舞)	731-2431	広島町荒神原	明治初年
1077	雄鹿原下組神楽団		731-2436	北広島町政所	
1079	小原神楽団	石見神楽六調子 (旧舞)	731-2203	北広島町小原	享保元年
1081	苜屋形神楽団	石見神楽	731-2317	北広島町苜屋形275	明治10年
1082	才乙神楽団	石見神楽六調子 (旧舞)	731-2314	北広島町才乙	明治時代
1083	川小田神楽団	石見神楽	731-2323	北広島町川小田	
1084	細見神楽団	石見神楽系六調子 (旧舞)	731-2322	北広島町細見	明治30年頃
1085	大暮神楽団	石見神楽	731-2204	北広島町大暮1272	明治時代
1086	移原神楽団	矢上系六調子 大元神楽	731-2206	北広島町移原	江戸時代
1087	高野神楽団	大元神楽	731-2201	北広島町高野(高野会館)	明治時代
1088	溝口神楽団		731-2202	北広島町溝口	明治時代

2. 神楽団の氏神神社一覧

整理番号	団体名	氏神神社	ふりがな
1027	阿坂神楽団	熊野新宮神社	くまのしんぐうじんじゃ
1028	今吉田神楽団	亀山八幡神社	かめやまはちまんじんじゃ
1029	上石神楽団	熊野新宮神社	くまのしんぐうじんじゃ
1030	琴庄神楽団	琴谷天日神社・庄原八幡神社	ことだにてんにちじんじゃ・しょうばらはちまんじんじゃ
1031	戸谷神楽団	戸谷亀山八幡神社	とだにかめやまはちまんじんじゃ
1032	中原神楽団		
1033	西宗神楽団	西宗八幡神社	にしむねはちまんじんじゃ
1035	吉木神楽団	宇都宮神社	うつのみやじんじゃ
1036	龍南神楽団	都志見八幡神社	つしみはちまんじんじゃ
1037	上川戸神楽団	熊野神社	くまのじんじゃ
1038	中川戸神楽団	吉藤八幡神社	よしとうはちまんじんじゃ
1039	曙神楽団	亀尾山八幡神社	かめおやまはちまんじんじゃ
1040	蔵迫神楽団		
1041	八重西神楽団	寺原八幡神社・有間八幡神社	てらはらはちまんじんじゃ・ありまはちまんじんじゃ
1042	春木神楽団		
1043	今田神楽団	今田八幡神社・後有田新宮神社	いまだはちまんじんじゃ
1044	有田神楽団	有田八幡神社	ありだはちまんじんじゃ
1045	東山神楽団	石井谷八幡神社	いしいだにはちまんじんじゃ
1046	山王神楽団	山末神社	やますえじんじゃ
1047	本地中組神楽団	本地中野神社	ほんじなかのじんじゃ
1048	上本地神楽団	本地八幡神社	ほんじはちまんじんじゃ
1049	砂庭神楽団	壬生神社	みぶじんじゃ
1050	川西神楽団		
1051	河内神楽団	惣森八幡神社	そうもりはちまんじんじゃ
1052	旭神楽団	南方八幡神社	みなみがたはちまんじんじゃ
1054	朝間神楽団	枝宮八幡神社	えだみやはちまんじんじゃ
1055	筏津神楽団	大歳神社	おおとしじんじゃ
1056	枝之宮神楽団	枝宮八幡神社	えだみやはちまんじんじゃ
1057	大塚神楽団	枝宮八幡神社	えだのみやはちまんじんじゃ
1060	郷之崎神楽団	龍山八幡神社	たつやまはちまんじんじゃ

1061	小枝神楽団	枝宮八幡神社	えだのみやはちまんじんじゃ
1062	小市馬神楽団	小山八幡神社	おやまはちまんじんじゃ
1064	磐門神楽団	天磐門別神社	あまのいわとわけじんじゃ
1065	本谷神楽団	八栄神社	やさかじんじゃ
1066	宮迫神楽団	龍山八幡神社	たつやまはちまんじんじゃ
1067	宮之庄神楽団	宮之庄八幡神社	みやのしょうはちまんじんじゃ
1068	八栄神楽団	八栄神社	やさかじんじゃ
1069	富士神楽団	富士神社	ふじじんじゃ
1070	平田神楽団	八栄神社	やさかじんじゃ
1072	市神楽団	龍山八幡神社	たつやまはちまんじんじゃ
1073	雲月女性神楽同好会		うづつきじょせいかぐらどうこうかい
1074	長尾組神楽団	八幡大歳神社	やわたおとしじんじゃ
1075	田尾組神楽団	八幡大歳神社	やわたおとしじんじゃ
1076	雄鹿原上組神楽団		
1077	雄鹿原下組神楽団		
1079	小原神楽団	小原大歳神社	こばらおとしじんじゃ
1081	苜屋形神楽団	宮谷神社	みやたにじんじゃ
1082	才乙神楽団	才乙大歳神社	さいおとおとしじんじゃ
1083	川小田神楽団	川小田大歳神社	かわこだおとしじんじゃ
1084	細見神楽団	細見大歳神社	ほそみおとしじんじゃ
1085	大暮神楽団	岡田神社	おかだじんじゃ
1086	移原神楽団	岡田神社	おかだじんじゃ
1087	高野神楽団	大元神社	おおもとじんじゃ
1088	溝口神楽団	中山八幡神社、照宮神社	なかやまはちまんじんじゃ、てるみやじんじゃ

3. 保持演目一覧

団体名	旧 舞	数
阿坂神楽団	天岩戸、八幡、大江山、塵倫、鍾馗、八岐大蛇	6
今吉田神楽団	神降し、塵倫、八岐大蛇、黒塚、大江山	5
上石神楽団	岩戸、鍾馗、塵倫、大江山、安達ヶ原、日本武尊、胴の口、四方祓、天神、八幡、八岐大蛇	11
琴庄神楽団	神降し、神迎え、天岩戸、鍾馗、塵倫、八岐大蛇	6
戸谷神楽団	大江山、八岐大蛇、天岩戸、神武、八幡、神迎え	6
西宗神楽団	大江山、鍾馗、西征、天岩戸、八幡、塵倫、那須野ヶ原の狐退治、恵比寿、八岐大蛇	9
吉木神楽団	塩祓い、恵比寿、大江山、八岐大蛇	4
龍南神楽団	八幡、鍾馗、天岩戸、天神、塵倫、大江山、八岐の大蛇、安達ヶ原	8
上川戸神楽団	神降し、天岩戸、日本武尊、塵倫、三浦、八岐の大蛇、鍾馗	7
中川戸神楽団	神降し、神迎え、八岐の大蛇、塵倫、鍾馗、八衢	6
曙神楽団	神降し	1
八重西神楽団	神降し、塵倫、鍾馗、八岐大蛇、恵比寿	5
春木神楽団		0
今田神楽団	神降し、八岐大蛇	2
有田神楽団	神降し、神迎え（四剣）、天岩戸、八幡、塵倫、紅葉狩、悪狐退治、集来、恵比寿、鍾馗、大江山、八岐大蛇	12
東山神楽団	神降し、鍾馗、塵倫、恵比寿、八岐大蛇	5
山王神楽団	天岩戸、八岐の大蛇、塵倫、八幡	4
本地中組神楽団	神降し、胴の口開け、大江山、八岐大蛇	4
上本地神楽団	四方拝	1
砂庭神楽団	神武、鍾馗、八岐大蛇	3
河内神楽団	八幡、悪狐伝、塵倫、大江山、熱田の宮、天岩戸、山伏、八岐大蛇	8
旭神楽団	八幡、八岐大蛇	2
朝間神楽団	潮祓、胴口、四方祓、天岩戸、神武、塵倫、三浦、山伏、日本武尊、大江山	10
筏津神楽団	潮祓、神迎え、八幡、天岩戸、塵倫、黒塚、神武、天神、日本武尊、鍾馗、大江山、鈴鹿山、恵比寿、八岐大蛇	14
枝之宮神楽団	神武、日本武尊、塵倫、ほか多数	3
大塚神楽団	四方祓い、胴の口、神迎え、天岩戸	4
郷之崎神楽団	潮祓、四人舞、神武、塵倫、鍾馗、恵比寿、八幡、天岩戸、八岐大蛇、三浦、大江山	11
小枝神楽団	四方祓い、八幡、鍾馗	3
小市馬神楽団	潮祓、三浦、神武、天神、塵倫、大江山、鍾馗、鈴鹿山、黒塚、八岐大蛇、八幡、恵比寿	12
磐門神楽団	潮祓い、神迎え、胴の口、天岩戸、八幡、八衢、鍾馗、塵倫、天神、神武、熊襲、日本武尊、剣舞（四神）	13

宮之庄神楽団	潮祓、神迎え、四神	3
富士神楽団	潮祓い、恵比寿、塵倫、八岐大蛇	5
市神楽団	三浦、大江山、塵倫	3
雲月女性神楽同好会	胴の口開け、鈴合わせ、恵比寿	3
長尾組神楽団	天岩戸、胴の口、恵比寿、黒塚、塵倫、八幡、神武、平良坂、鍾馗、天神、鬼返し、矢上姫、猿田彦、八岐大蛇、貴船、杵築大明神、五郎皇子、神皇皇后、鞆鞆	19
田尾組神楽団	尊神、八幡、四神、天岩戸、天神、神武、大江山、五郎の王子、黒塚、八つ花、鍾馗、八岐大蛇、十羅刹女	13
雄鹿原上組神楽団	奉幣、四方祓、尊神、弓八幡、天神、四神、神武、日本武尊、恵比寿、塵倫、大江山、八岐大蛇、黒塚、鍾馗、かつ鼓、天岩戸、胴の口明、頼政	18
小原神楽団	潮祓、尊神、剣舞、八幡、神武、天岩戸、鍾馗、天蓋、天神、塵倫、八岐大蛇、黒塚、大江山、恵比寿、四剣、胴の口明け	16
苅屋形神楽団	胴の口開け、潮祓い、尊神、四神、天蓋、天神、八岐大蛇、大江山、塵倫、八幡、矢旗、天岩戸、黒塚、鍾馗	14
才乙神楽団	四方祓、四神、天岩戸、八幡、神武、天神、塵倫、鍾馗、八岐大蛇、大江山、黒塚、恵比寿、天蓋、たく舞	14
川小田神楽団	清め、天神、塵倫、天岩戸、八つ花、神武、鍾馗、尊神	8
細見神楽団	四方祓、尊神、四神、天神、神武、八幡、塵倫、鍾馗、八岐大蛇、天岩戸、大江山、恵比寿、天蓋	13
大暮神楽団	潮祓、尊神、四神、天神、神武、八幡、大江山、塵倫、安達ヶ原、鍾馗、八岐大蛇	11
移原神楽団	四方祓、尊神、四神、天岩戸、弓八幡、宇佐八幡、天神、鍾馗、関山、風宮、黒塚、神武、恵比寿、大江山、八岐大蛇	15
高野神楽団	七代、手草、黒塚、天岩戸、大江山、鍾馗、弓八幡、胴の口、御座舞、平坂、天神、葛城山、八岐大蛇	13
溝口神楽団	四方拝、神迎え、天の岩戸、恵比須、八岐大蛇、折敷舞、塵倫、鈴鹿山、天神、日本武尊、山伏、悪狐退治、神武、鍾馗、大江山、胴の口明	17
小 計		369
平 均		8.0

団体名	新 舞	数
阿坂神楽団	恵比寿、紅葉狩、葛城山、鈴鹿山、滝夜叉姫、悪狐伝	6
今吉田神楽団	壇ノ浦、紅葉狩、日本武尊、滝夜叉姫、山姥、葛城山、天神、神武東征、戻り橋	9
上石神楽団	葛城山、滝夜叉姫、戻り橋、悪狐伝、紅葉狩、山姥	6
琴庄神楽団	土蜘蛛、滝夜叉姫、日本武尊、義経平氏追討、山姥、悪狐伝、大江山、羅生門	8
戸谷神楽団	葛城山、紅葉狩、滝夜叉姫、戻り橋、悪狐伝	5
西宗神楽団	紅葉狩、筑波山、滝夜叉姫、葛城山、悪狐伝	5
吉木神楽団	土蜘蛛、戻り橋、紅葉狩、山姥、羅生門、悪狐伝、滝夜叉姫	7
龍南神楽団	悪狐伝、紅葉狩	2
上川戸神楽団	滝夜叉姫、土蜘蛛	2
中川戸神楽団	滝夜叉姫、熊襲、伊吹山、土蜘蛛、悪狐伝（中編）、八幡、紅葉狩、大江山	8
曙神楽団	滝夜叉姫、葛城山、戻り橋（前編・後編）、大江山、悪狐伝、子持山姥、八岐大蛇	8
八重西神楽団	悪狐伝、滝夜叉姫、紅葉狩、戻り橋、羅生門、大江山、土蜘蛛、山姥	8
春木神楽団	紅葉狩、山姥、悪狐伝、土蜘蛛子、戻り橋、滝夜叉姫、安珍清姫、八岐大蛇	8

今田神楽団	葛城山、滝夜叉姫、紅葉狩、戻り橋、羅生門、大江山、鈴鹿山、殺生石、日本武尊、東国征伐、塵倫、恵比寿	12
東山神楽団	大江山、戻り橋、土蜘蛛、悪狐伝、滝夜叉姫、紅葉狩、日本武尊	7
山王神楽団	土蜘蛛、紅葉狩、滝夜叉姫、戻り橋、羅生門、大江山、恵比寿、鈴鹿山、三上山、伊吹山、山姥、悪狐伝、日本武尊	13
本地中組神楽団	悪狐伝、伊吹山、子持山姥、滝夜叉姫、土蜘蛛、戻り橋、紅葉狩、日本武尊	8
上本地神楽団	悪狐退治、土蜘蛛、紅葉狩、鈴鹿山、戻り橋、羅生門、大江山、滝夜叉姫、日本武尊、八岐大蛇	10
河内神楽団	日本武尊、葛城山、戻り橋、滝夜叉姫、紅葉狩	5
旭神楽団	滝夜叉姫、紅葉狩、武蔵ヶ原、天満天神、悪狐退治、大江山	6
後津神楽団	大江山、鈴鹿山、紅葉狩、葛城山、羅生門	5
大塚神楽団	土蜘蛛、紅葉狩、滝夜叉姫、戻り橋、羅生門、大江山、山姥、橋弁慶、熊襲、倭建命、伊吹山、鈴鹿山、八岐大蛇、悪狐伝、恵比寿、義経記、塵倫、道成寺	18
宮之庄神楽団	伊吹山、土蜘蛛、悪狐伝、滝夜叉姫、熊襲、紅葉狩、戻り橋	7
富士神楽団	滝夜叉姫、大江山、熊襲、紅葉狩、羅生門、鈴鹿山、葛城山、悪狐伝（中編・後編）	9
移原神楽団	戻り橋	1
溝口神楽団	葛城山、滝夜叉姫、戻り橋	3
小 計		186
平 均		4.0

団体名	創 作 演 目	数
上石神楽団	吉川元春、曾我兄弟	2
琴庄神楽団	巖島、義経奥州平泉	2
西宗神楽団	桃太郎伝説	1
中川戸神楽団	板蓋宮、天の香具山、青葉の笛、茨木	4
八重西神楽団	奥州安達ヶ原の鬼女、鬼同丸退治	2
有田神楽団	有田中井手の戦い	1
東山神楽団	天神記、伊服岐山	2
山王神楽団	猿島の乱、鈴鹿	2
上本地神楽団	壇ノ浦、関の扉	2
旭神楽団	八幡、八岐大蛇	2
磐門神楽団	金沢の柵、天慶	2
富士神楽団	天慶新皇記	1
溝口神楽団	稲村ヶ崎	1
小 計		24
平 均		0.5

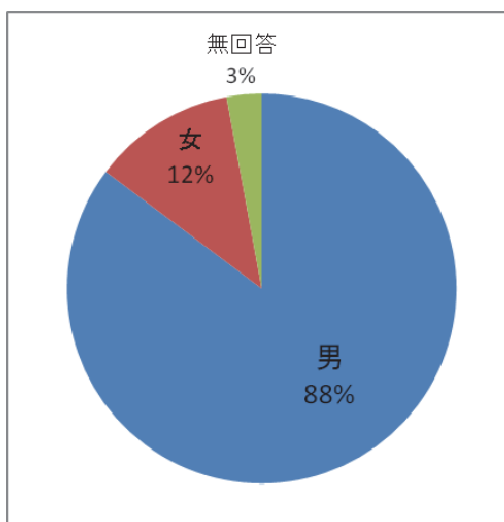
◇保持演目の合計と一団体当りの平均（アンケートに回答のあった46団体中）

	旧舞	新舞	創作	合計
保持演目数	369	186	24	559
平均	8.0	4.0	0.5	12.4

4. 団員構成

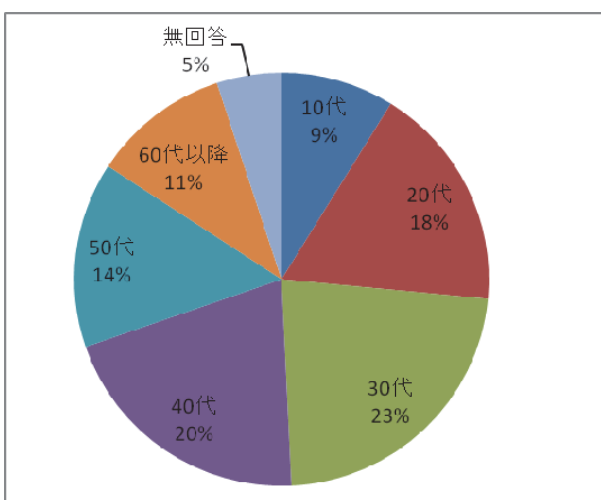
4-1. 男女構成

男	675 (85.2%)
女	94 (12.2%)
無回答	23 (2.9%)
合計	792 (100%)



4-2. 年齢構成

10代	70 (9.3%)
20代	140 (18.8%)
30代	180 (23.5%)
40代	162 (21.5%)
50代	115 (15.3%)
60代以降	85 (11.5%)
無回答	40 (5.3%)
合計	752 (100%)



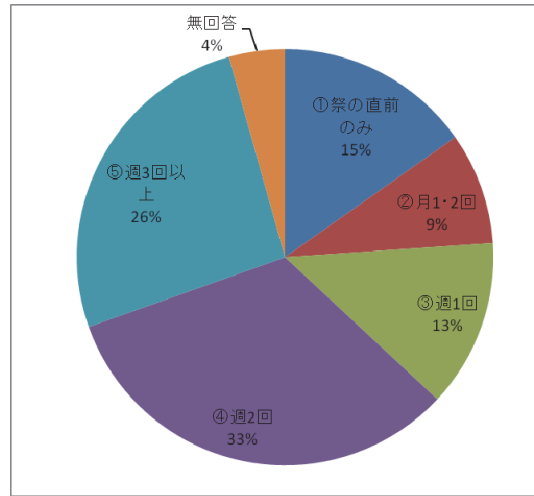
4-3. 各神楽団の団員構成

団体名	団員数	性		年代					
		男	女	10代	20代	30代	40代	50代	60代
有田神楽団	26	24	2	1	9	4	5	3	4
吉木神楽団	25	21	4	3	2	6	1	8	5
東山神楽団	24	23	1	5	4	9	4	0	2
曙神楽団	24	22	2	3	5	5	6	2	3
阿坂神楽団	24	19	5	3	4	4	5	2	6
八重西神楽団	23	21	2	2	5	7	4	3	2
筏津神楽団	23	21	2	3	6	2	5	3	4
上石神楽団	23	20	3	1	3	7	3	2	7
今吉田神楽団	23	19	4	2	6	6	2	3	4
西宗神楽団	23	19	4	2	4	4	4	5	4
山王神楽団	23	—	—	—	—	—	—	—	—
本地中組神楽団	21	19	2	7	5	1	3	2	3
旭神楽団	20	20	0	1	6	3	3	5	2
大塚神楽団	20	18	2	2	6	5	4	2	1
今田神楽団	20	17	3	2	7	5	4	1	1
上本地神楽団	20	16	4	5	8	4	2	1	0
市神楽団	19	19	0	0	1	2	11	5	0
富士神楽団	19	18	1	2	7	2	6	2	0
琴庄神楽団	19	17	2	5	3	3	4	4	0
上川戸神楽団	18	17	1	0	4	2	3	5	4
長尾組神楽団	18	16	2	0	5	2	4	4	3
龍南神楽団	18	14	4	2	1	4	6	4	1
砂庭神楽団	17	17	0	—	—	—	—	—	—
郷之崎神楽団	17	15	2	2	1	4	3	7	0
枝之宮神楽団	17	14	3	0	2	10	2	2	1
苅屋形神楽団	17	14	3	0	3	2	4	4	4
移原神楽団	16	15	1	1	2	7	2	1	3
春木神楽団	16	13	3	3	7	2	2	2	0
大暮神楽団	15	14	1	0	2	6	3	4	0
中川戸神楽団	15	13	2	3	5	4	2	1	0
河内神楽団	15	12	3	2	2	3	3	3	2
田尾組神楽団	14	14	0	0	1	6	4	3	0
細見神楽団	14	14	0	1	2	3	8	0	0
宮之庄神楽団	14	11	3	2	0	5	4	2	1
戸谷神楽団	13	13	0	0	2	4	2	4	1
小市馬神楽団	13	12	1	1	2	5	5	0	0
雲月女性神楽同好会	13	0	13	0	2	5	2	4	0
溝口神楽団	13	12	1	1	1	6	3	2	0
才乙神楽団	12	12	0	0	2	5	3	0	2
朝間神楽団	12	11	1	0	1	3	5	3	0
小原神楽団	12	11	1	0	0	4	3	0	5
高野神楽団	12	10	2	2	0	1	5	1	3
磐門神楽団	12	8	4	0	0	7	3	0	2
小枝神楽団	11	11	0	0	1	1	3	3	3
川小田神楽団	9	9	0	1	1	0	2	3	2
雄鹿原上組神楽団	—	—	—	—	—	—	—	—	—
合計	792	675	94	70	140	180	162	115	85
1団体平均	17.6	15.3	2.1	1.6	3.3	4.2	3.8	2.7	2.0

5. 練習状況・団員募集状況

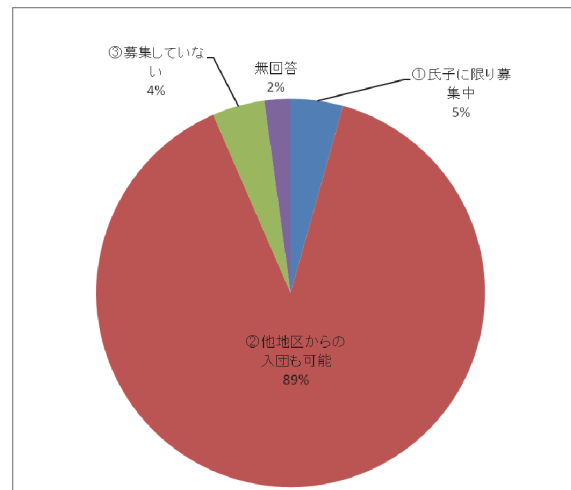
5-1. 練習状況

	団体	%
① の直前のみ	7	15.2%
② 1・2回	4	8.7%
③ 1回	6	13.0%
④ 2回	15	32.6%
⑤ 3回以上	12	26.1%
無回答	2	4.3%
合計	45	100%



5-2. 団員募集状況

	団体	%
① 氏子に限り募集中	2	4.4%
② 地区からの入団も可能	40	88.9%
③ 募集していない	2	4.4%
無回答	1	2.2%
合計	45	100%



5-3. 各神楽団の練習状況および団員募集状況

整理番号	団体名	練習状況	団員募集状況
1027	阿坂神楽団	週2回	他地区からの入団も可
1028	今吉田神楽団	週2回	他地区からの入団も可
1029	上石神楽団	週2回	無回答
1030	琴庄神楽団	週2回	他地区からの入団も可
1031	戸谷神楽団	無回答	他地区からの入団も可
1033	西宗神楽団	週3回以上	他地区からの入団も可
1035	吉木神楽団	週2回	他地区からの入団も可
1036	龍南神楽団	週1回	他地区からの入団も可
1037	上川戸神楽団	祭の直前のみ	他地区からの入団も可
1038	中川戸神楽団	週3回以上	他地区からの入団も可
1039	曙神楽団	週3回以上	他地区からの入団も可
1041	八重西神楽団	週2回	他地区からの入団も可
1042	春木神楽団	週3回以上	他地区からの入団も可
1043	今田神楽団	週3回以上	他地区からの入団も可
1044	有田神楽団	週3回以上	他地区からの入団も可
1045	東山神楽団	週2回	他地区からの入団も可
1046	山王神楽団	週3回以上	他地区からの入団も可
1047	本地中組神楽団	週3回以上	他地区からの入団も可
1048	上本地神楽団	週3回以上	他地区からの入団も可
1049	砂庭神楽団	週2回	他地区からの入団も可
1051	河内神楽団	祭の直前のみ	他地区からの入団も可
1052	旭神楽団	週3回以上	他地区からの入団も可
1054	朝間神楽団	祭の直前のみ	他地区からの入団も可
1055	筏津神楽団	週3回以上	他地区からの入団も可
1056	枝之宮神楽団	週1回	他地区からの入団も可
1057	大塚神楽団	週3回以上	他地区からの入団も可
1060	郷之崎神楽団	週2回	他地区からの入団も可
1061	小枝神楽団	祭の直前のみ	他地区からの入団も可
1062	小市馬神楽団	週2回	他地区からの入団も可
1064	磐門神楽団	月1, 2回	他地区からの入団も可

1067	宮之庄神楽団	週2回	他地区からの入団も可
1069	富士神楽団	無回答	他地区からの入団も可
1072	市神楽団	祭の直前のみ	募集していない
1073	雲月女性神楽同好会	祭の直前のみ	他地区からの入団も可
1074	長尾組神楽団	月1, 2回	他地区からの入団も可
1075	田尾組神楽団	月1, 2回	他地区からの入団も可
1076	雄鹿原上組神楽団	週2回	氏子に限る
1079	小原神楽団	週2回	他地区からの入団も可
1081	苅屋形神楽団	週1回	他地区からの入団も可
1082	才乙神楽団	週1回	他地区からの入団も可
1083	川小田神楽団	月1, 2回	他地区からの入団も可
1084	細見神楽団	週1回	他地区からの入団も可
1085	大暮神楽団	祭の直前のみ	他地区からの入団も可
1086	移原神楽団	週2回	募集していない
1087	高野神楽団	週1回	氏子に限る
1088	溝口神楽団	週2回	他地区からの入団も可

6. 上演状況 H23(2011)年～H25(2013)年

6-1-1. 北広島町内神楽団の上演状況 H23(2011)年

区分	上演形態						上演場所				
	競演大会	共演大会	イベント	地区外奉納	その他	小計	町内	県内	県外	海外	小計
合計	52	56	226	83	12	429	169	229	31	1	430
平均	1.3	1.4	5.7	2.1	0.3	11.3	4.2	5.7	0.8	0.03	11.3
最大値	6	17	30	10	3	48	13	32	10	1	48
最小値	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1

・46団体中、回答のあった40団体を分析対象とし、合計、平均、最大値、最小値を算出。

・H23(2011)年、最も多く上演した神楽団の上演回数は48回。最少は1回。

※氏神社への奉納は数に含まれない。

・上演形態別では、イベントへの出演が最も多く、全体で226回（1団体平均5.7回）。

・上演場所別では、北広島町以外の広島県内が、229回（1団体平均5.7回）で最多。

6-1-2. 神楽団別の上演状況 H23(2011)年

団体名	上演形態						上演場所				
	競演	共演	イベント	地区外奉納	その他	小計	町内	県内	県外	海外	小計
阿坂神楽団	1	0	7	2	0	10	5	5	0	0	10
今吉田神楽団	1	0	9	3	2	15	4	11	0	0	15
上石神楽団	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
琴庄神楽団	6	14	22	5	1	48	10	32	6	0	48
戸谷神楽団	1	0	1	1	0	3	2	1	0	0	3
西宗神楽団	2	2	13	5	0	22	13	9	0	0	22
吉木神楽団	1	0	10	2	0	13	4	9	0	0	13
龍南神楽団	4	0	3	1	0	8	3	4	1	0	8
上川戸神楽団	0	0	1	0	0	1	1	0	0	0	1
中川戸神楽団	4	17	8	4	0	33	13	15	5	0	33
曙神楽団	1	1	6	0	0	8	2	6	0	0	8
八重西神楽団	0	1	3	3	0	7	3	4	0	0	7
春木神楽団	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
今田神楽団	1	1	9	6	0	17	5	10	1	0	16
有田神楽団	1	1	4	10	1	17	7	10	1	0	18

東山神楽団	4	2	14	5	0	25	12	11	2	0	25
山王神楽団	2	1	30	3	0	36	3	30	1	1	35
本地中組神楽団	1	2	7	3	1	14	6	8	0	0	14
上本地神楽団	2	3	9	2	0	16	5	10	10	0	25
砂庭神楽団	0	0	5	2	0	7	0	7	0	0	7
河内神楽団	1	0	0	1	0	2	2	0	0	0	2
旭神楽団	1	0	1	0	1	3	3	0	0	0	3
朝間神楽団	1	0	0	1	0	2	2	0	0	0	2
後津神楽団	—	—	—	—	—	35	—	—	—	—	35
枝之宮神楽団	1	0	0	0	0	1	1	0	0	0	1
大塚神楽団	5	3	21	3	3	35	8	24	3	0	35
郷之崎神楽団	1	1	2	0	0	4	2	2	0	0	4
小枝神楽団	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小市馬神楽団	1	0	2	1	0	4	4	0	0	0	4
磐門神楽団	1	0	2	0	0	3	1	2	0	0	3
宮之庄神楽団	1	0	1	1	1	4	4	0	0	0	4
富士神楽団	1	0	3	3	0	7	4	3	0	0	7
市神楽団	1	0	0	0	0	1	1	0	0	0	1
雲月女性神楽 同好会	0	0	3	0	0	3	1	2	0	0	3
長尾組神楽団	0	2	2	0	2	6	6	0	0	0	6
田尾組神楽団	4	1	10	8	0	23	10	4	1	0	15
雄鹿原上組 神楽団	0	0	6	1	0	7	6	1	0	0	7
小原神楽団	0	1	1	1	0	3	3	0	0	0	3
苅屋形神楽団	1	0	4	3	0	8	2	7	0	0	9
才乙神楽団	0	1	3	1	0	5	5	0	0	0	5
川小田神楽団	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
細見神楽団	0	1	0	0	0	1	1	0	0	0	1
大暮神楽団	0	0	1	1	0	2	1	1	0	0	2
移原神楽団	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
高野神楽団	0	1	3	1	0	5	4	1	0	0	5
溝口神楽団	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

6-2-1. 北広島町内神楽団の上演状況 H24（2012）年

区分	上演形態						上演場所				
	競演	共演	イベント	地区外奉納	その他	小計	町内	県内	県外	海外	小計
合計	55	55	230	88	14	442	175	235	28	1	439
平均	1.3	1.3	5.2	2.0	0.3	10.6	4.0	5.3	0.6	0.0	10.5
最大値	7	19	27	11	3	50	15	33	7	1	51
最小値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

・46団体中、回答のあった43団体を分析対象とし、合計、平均、最大値、最小値を算出。

・H24(2012)年、最も多く上演した神楽団の上演回数は50回。最少は0回。

※ 氏神社への奉納は数に含まれない。

・上演形態別では、イベントへの出演が最も多く、全体で230回（1団体平均5.2回）。

・上演場所別では、北広島町以外の広島県内が、235回（1団体平均5.3回）で最多。

6-2-2. 神楽団別の上演状況 H24（2012）年

団体名	上演形態						上演場所				
	競演	共演	イベント	地区外奉納	その他	小計	町内	県内	県外	海外	小計
阿坂神楽団	1	0	7	2	1	11	5	6	1	0	12
今吉田神楽団	2	0	8	5	0	15	3	13	0	0	16
上石神楽団	1	0	13	0	0	14	10	2	2	0	14
琴庄神楽団	7	13	26	3	1	50	11	33	7	0	51
戸谷神楽団	1	0	2	1	0	4	3	1	0	0	4
西宗神楽団	4	2	8	4	0	18	8	10	0	0	18
吉木神楽団	1	0	6	2	0	9	3	6	0	0	9
龍南神楽団	3	0	2	0	0	5	3	1	1	0	5
上川戸神楽団	1	0	1	0	0	2	2	0	0	0	2
中川戸神楽団	3	19	6	4	0	32	15	13	4	0	32
曙神楽団	1	1	5	1	0	8	3	5	0	0	8
八重西神楽団	1	2	3	3	0	9	3	5	1	0	9
春木神楽団	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
今田神楽団	0	0	8	6	0	14	4	10	0	0	14

有田神楽団	1	1	4	11	1	18	6	12	0	0	18
東山神楽団	3	0	13	3	1	20	10	8	2	0	20
山王神楽団	2	1	27	3	0	33	2	28	0	0	30
本地中組神楽団	4	0	6	4	0	14	5	9	0	0	14
上本地神楽団	2	3	12	5	0	22	4	17	2	0	23
砂庭神楽団	0	1	3	2	0	6	0	6	0	0	6
河内神楽団	1	0	0	2	0	3	2	1	0	0	3
旭神楽団	0	0	3	2	1	6	3	3	0	0	6
朝間神楽団	1	0	0	1	0	2	2	0	0	0	2
筏津神楽団	—	—	—	—	—	35	—	—	—	—	35
枝之宮神楽団	1	0	0	0	0	1	1	0	0	0	1
大塚神楽団	5	3	21	3	3	35	8	24	3	0	35
郷之崎神楽団	3	0	6	0	0	9	2	6	1	0	9
小枝神楽団	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
小市馬神楽団	1	0	2	2	0	5	5	0	0	0	5
磐門神楽団	0	0	0	0	2	2	0	2	0	0	2
宮之庄神楽団	1	0	1	1	1	4	3	1	0	0	4
富士神楽団	1	0	3	3	0	7	3	4	0	0	7
市神楽団	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
雲月女性 神楽同好会	0	0	2	0	0	2	1	0	1	0	2
長尾組神楽団	0	2	1	1	2	6	6	0	0	0	6
田尾組神楽団	0	1	6	5	0	12	5	1	1	0	7
雄鹿原上組 神楽団	1	0	8	0	1	10	8	1	0	1	10
小原神楽団	0	0	2	2	0	4	4	0	0	0	4
苅屋形神楽団	1	0	5	2	0	8	3	6	0	0	9
才乙神楽団	0	1	3	1	0	5	5	0	0	0	5
川小田神楽団	0	0	0	1	0	1	1	0	0	0	1
細見神楽団	0	1	0	1	0	2	2	0	0	0	2
大暮神楽団	0	1	0	1	0	2	1	1	0	0	2
移原神楽団	0	2	5	0	0	7	5	0	2	0	7
高野神楽団	0	1	2	1	0	4	4	0	0	0	4
溝口神楽団	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

6-3-1. 北広島町内神楽団の上演状況 H25 (2013) 年

区分	上演形態						上演場所				
	競演大会	共演大会	イベント	地区外奉納	その他	小計	町内	県内	県外	海外	小計
合計	53	66	265	91	20	495	187	252	28	0	467
平均	1.2	1.5	6.0	2.1	0.5	11.3	4.3	5.9	0.7	0.0	11.3
最大値	5	17	30	12	3	44	14	35	4	0	45
最小値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

- ・46団体を分析対象とし、合計、平均、最大値、最小値を算出。
- ・H25(2013)年、最も多く上演した神楽団の上演回数は44回。最少は0回。

※ 氏神神社への奉納は数に含まれない。

- ・上演形態別では、イベントへの出演が最も多く、全体で265回（1団体平均6.0回）。
- ・上演場所別では、北広島町以外の広島県内が252回（1団体平均5.9回）で最多。

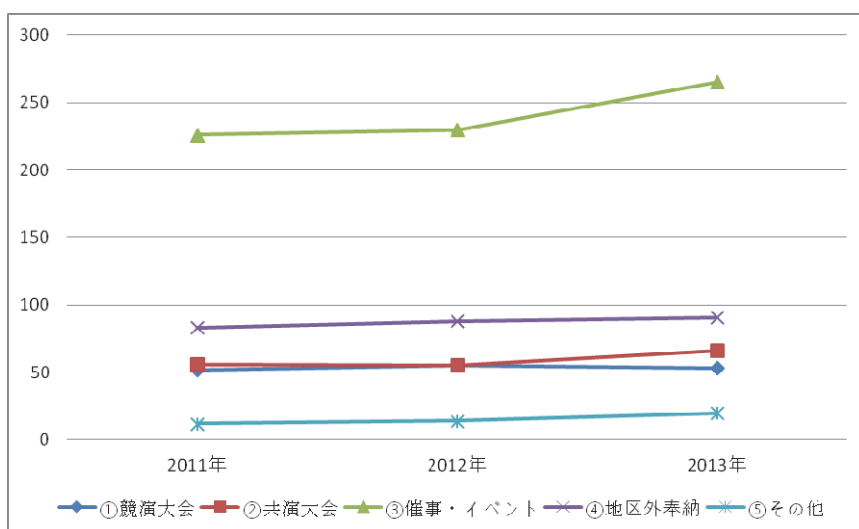
6-3-2. 神楽団別の上演状況 H25 (2013) 年

団体名	上演形態						上演場所				
	競演	共演	イベント	地区外奉納	その他	小計	町内	県内	県外	海外	小計
阿坂神楽団	0	0	8	3	1	12	6	7	0	0	13
今吉田神楽団	1	0	12	4	1	18	3	14	1	0	18
上石神楽団	2	0	9	2	0	13	5	5	3	0	13
琴庄神楽団	4	15	19	5	1	44	7	35	3	0	45
戸谷神楽団	1	0	2	1	0	4	3	1	0	0	4
西宗神楽団	2	3	11	4	0	20	10	8	2	0	20
吉木神楽団	2	0	11	1	0	14	6	8	0	0	14
龍南神楽団	2	0	4	1	0	7	4	3	0	0	7
上川戸神楽団	0	0	4	0	0	4	2	2	0	0	4
中川戸神楽団	5	17	4	3	1	30	12	15	3	0	30
曙神楽団	2	2	10	0	0	14	3	11	0	0	14
八重西神楽団	1	0	2	1	0	4	2	1	1	0	4
春木神楽団	0	0	0	0	0	0	5	3	0	0	8
今田神楽団	1	2	10	4	0	17	—	—	—	—	—
有田神楽団	1	2	3	12	2	20	7	13	0	0	20
東山神楽団	3	6	14	4	0	27	14	10	3	0	27

山王神楽団	2	1	30	3	0	36	3	30	0	0	33
本地中組神楽団	1	0	7	5	1	14	5	9	0	0	14
上本地神楽団	3	4	6	7	3	23	6	13	4	0	23
砂庭神楽団	0	0	5	1	0	6	0	6	0	0	6
河内神楽団	0	0	0	3	0	3	2	1	0	0	3
旭神楽団	1	0	7	2	0	10	5	5	0	0	10
朝間神楽団	1	0	0	1	0	2	2	0	0	0	2
筏津神楽団	—	—	—	—	—	30	—	—	—	—	30
枝之宮神楽団	1	0	0	0	0	1	1	0	0	0	1
大塚神楽団	5	3	21	3	3	35	8	24	3	0	35
郷之崎神楽団	2	0	10	0	0	12	2	10	0	0	12
小枝神楽団	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
小市馬神楽団	2	0	1	1	0	4	3	1	0	0	4
磐門神楽団	1	0	0	0	1	2	1	1	0	0	2
宮之庄神楽団	1	0	1	2	1	5	4	1	0	0	5
富士神楽団	2	0	3	3	0	8	4	3	1	0	8
市神楽団	1	0	0	0	0	1	1	0	0	0	1
雲月女性 神楽同好会	0	0	2	0	0	2	2	0	0	0	2
長尾組神楽団	3	1	3	0	2	9	6	3	0	0	9
田尾組神楽団	0	1	5	5	0	11	5	1	0	0	6
雄鹿原上組 神楽団	0	1	8	1	0	10	9	1	0	0	10
小原神楽団	0	1	1	1	0	3	3	0	0	0	3
苅屋形神楽団	0	0	5	4	0	9	2	6	2	0	10
才乙神楽団	0	0	7	1	0	8	8	0	0	0	8
川小田神楽団	0	1	1	0	3	5	5	0	0	0	5
細見神楽団	0	1	0	0	0	1	1	0	0	0	1
大暮神楽団	0	0	1	1	0	2	1	1	0	0	2
移原神楽団	0	1	3	0	0	4	3	0	1	0	4
高野神楽団	0	1	3	2	0	6	5	0	1	0	6
溝口神楽団	0	3	12	0	0	15	—	—	—	—	—

6-4-1. 上演数の推移 H23(2011)年～H25(2013)年：46団体合計

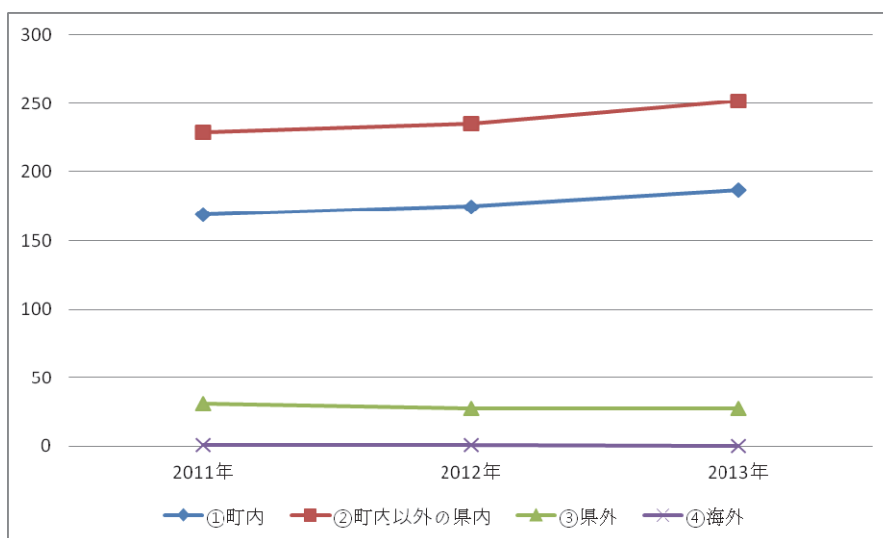
	H23年 (2011)	H24年 (2012)	H25年 (2013)	合計
①競演大会	52	55	53	160
②共演大会	56	55	66	177
③催事・イベント	226	230	265	721
④地区外奉納	83	88	91	262
⑤その他	12	14	20	46
合計	429	442	495	1366



- ・ H23(2011)年～H25(2013)年にかけての上演数の推移を上演形態別に表示。
- ・ 競演大会、共演大会、地区外奉納での上演回数は、微増またはほとんど変化なし。
- ・ 催事、イベントでの上演回数は、H23(2011)年に比べH25(2013)年では39回増加。
- ・ すべての出演（上演）回数は、H23(2011)年→H24(2012)年で13増加、H24(2012)年→H25(2013)年で53増加しており、過去3年間で66回増加。
- ・ 1団体当り上演回数の推移は、11.3回H23(2011)年、10.6回H24(2012)年、11.3回H25(2013)年となりました。

6-4-2. 場所の推移 H23(2011)年～H25(2013)年：46 団体合計

	H23年 (2011)	H24年 (2012)	H25年 (2013)	合計
①北広島町内	169	175	187	531
②町内以外の県内	229	235	252	716
③県外	31	28	28	87
④海外	1	1	0	2
合計	430	439	467	1336



- ・ H23(2011)年～H25(2013)年にかけての上演数の推移を上演場所別に表示。
- ・ 北広島町内および北広島町外の広島県内での上演が増加傾向。
- ・ 県外および海外での上演は、上記に比べ低い水準で推移。

7. 神楽に対する団の活動方針や考え

7-1. 神楽に対する団の活動方針や考え（複数回答）	団体（％）
①昔からの演目には手を加えず、できる限りそのまま継承したい	22 (47.8)
②創作演目にも取り組んでみたい	17 (37.0)
③演出や仕掛けなどは最低限でよい	13 (28.3)
④お客様が驚くような演出や仕掛けをしてみたい	14 (30.4)
⑤できる限り氏神さんの上演だけしたい	6 (13.0)
⑥神楽大会やイベントなどに多く出演したい	16 (34.8)
⑦東京や大阪等の大都市や海外で公演してみたい	8 (17.4)
⑧その他	6 (13.0)
合計	46 (100)

7-2. 自由記述

豊平地区 A神楽団	団員の高齢化、新規団員もなく、少人数で運営しており練習も仕事や他の同好会活動と重なり出来ず活動がしりすぼみになっている。これの繰り返しで運営継続がきびしい。
千代田地区 B神楽団	仕事や地域を大切にする中で神楽も頑張るよう常々話している。神楽という団体活動を行う中で人間として成長して欲しい。神楽だけという人間にはなって欲しくない。
大朝地区 C神楽団	儀式舞や希少演目（上演されること、または上演できる団体が少ないなどの演目）に力を入れていく。
芸北地区 D神楽団	上演依頼があればできる限り参加するようにしている。依頼者の思いを出来る限りくみとるようにしている。
芸北地区 E神楽団	氏神が祀ってある神社の秋季大祭にて無事に神楽を奉納できるようにと考えている。先人が継承されてきた地元の文化である神楽を貴重な財産として後世に確実に伝承できるように努力している。
芸北地区 F神楽団	あくまで地元神社の奉納がメインと考えていますが、発表の場さえあれば出来る限り出場し多くの皆様に練習の成果を見ていただきたい。

8. 活動上の負担や悩み

8-1. 団にとって負担になっていることや悩み（複数回答）	団体（％）
①知名度が低い	8（17.4）
②知名度が高い	0（0.0）
③団員が少ない	30（65.2）
④団員が多い	1（2.2）
⑤若い団員が少ない	22（47.8）
⑥必要経費の捻出	5（10.9）
⑦練習時間の確保	14（30.4）
⑧仕事との両立が困難	20（43.5）
⑨出演機会が多いこと	0（0.0）
⑩出演機会が少ないこと	4（8.7）
⑪小道具などを作る手間	1（2.2）
⑫各団体・組織との連絡調整	2（4.3）
⑬文化財指定を受けていること	0（0.0）
⑭しがらみや内外部からの圧力	1（2.2）
⑮その他	3（6.5）
合計	46（100）

8-2. 自由記述

豊平地区 A神楽団	色々取り組みたいのですが、人員が仕事の都合等で揃わないのでなかなか取り組めない。
千代田地区 B神楽団	団員が多いに越したことはないが、実働の22～23人が適当。
芸北地区 C神楽団	今後の継承をどのようにしていくか、現在は人数がいるが、これから問題になってくる。

9. 団のウリや強み、アピールポイント

9-1. 団のウリや強み、アピール（複数回答）	団体 (%)
①知名度がある	1 (2.2)
②文化財指定を受けている	1 (2.2)
③団員が多い	2 (4.3)
④若い団員が多い	5 (10.9)
⑤経済的余裕がある	2 (4.3)
⑥練習量が確保できる	3 (6.5)
⑦舞・奏楽の上手な人がいる	8 (17.4)
⑧HP や SNS 等を活用した情報発信ができる	4 (8.7)
⑨オリジナル演目がある	4 (8.7)
⑩共演大会の優勝経験がある	5 (10.9)
⑪その他	10 (21.7)
合計	46 (100)

9-2. 自由記述

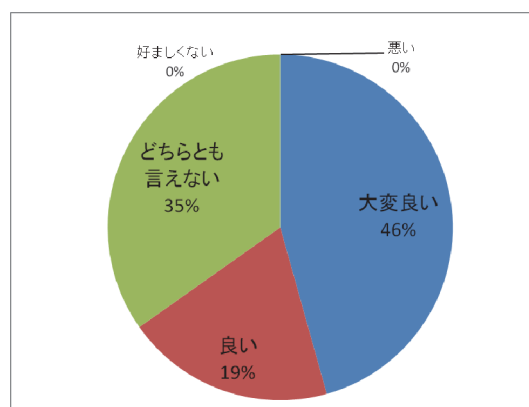
豊平地区 A神楽団	伝統を守る。
豊平地区 B神楽団	何事にもチャレンジしようとする気持ち。
千代田地区 C神楽団	団員のまとまり、地域の支援がある。
千代田地区 D神楽団	伝統的な技術を守る為に努力を惜しまない。
大朝地区 E神楽団	地域に立派な体育館があり、しっかり地元の方に活動をみていただくよう活動しています。
芸北地区 F神楽団	女性だけで活動しているところ。
芸北地区 G神楽団	昔からの神楽を継承していることが強み。これらの舞い方や奏楽を大切にしつつ「重み」のある「土くさい」神楽を継承していきたい。
芸北地区 H神楽団	神楽に関する研究のほか舞法の基本的な法則を重要視している。
芸北地区 I神楽団	今日まで伝承されてきた神楽をこれからも伝えること。
芸北地区 J神楽団	オリジナルではありませんが、当地域では珍しい演目として「折敷舞」を舞わせていただく機会を多くいただいています。また、2015年中の完成を目標に創作演目「稲村ヶ崎」の練習に取り組んでいる最中です。

10. 北広島町で神楽を観光資源として活用することについて

10-1. 北広島町で神楽を観光資源として活用することについて

団 (%)

①大変良い	21 (45.7)
②良い	9 (19.6)
③どちらとも言えない	16 (34.8)
④好ましくない	0 (0.0)
⑤悪い	0 (0.0)
合計	46 (100)



10-2. 自由記述

千代田地区 A神楽団	良いことではあるが、団によっては負担となることも出てくるのではと考える。特に小規模の団は。
千代田地区 B神楽団	神楽団として協力できる範囲協力し、町の観光アピールに努めて行きたい思いはあるが、団員の減少・仕事（学校）との両立が大変難しい問題となっている。
千代田地区 C神楽団	双方の調整のとれた中での実施が望ましい。
千代田地区 D神楽団	北広島町を語る上で神楽は無くてはならない存在である。この地域に根ざした郷土芸能を保存・継承し、技量を高める事は非常に重要なことと認識しています。ですが、神楽を観光資源として活用することには、団員の負担を強いるため慎重にお願いしたい。できるだけ協力するつもりではありますが、団の実情により十分な対応ができないことをご理解ください。また、神楽そのものが団員の奉仕の精神で成り立っているため、行政利用であれば経済的援助を検討することが必要ではないでしょうか。
大朝地区 E神楽団	観光資源としてはアピール力が強いと考える。 神楽の本来あるべき姿や本質から考えると資源的な扱いには多方面から疑問がある。
芸北地区 F神楽団	地域のそれぞれの神楽が有り、それがPRできるならばよいが、派手なものばかりではなく、地味でもそれを大事に守っている方もいることも忘れないようにしてもらいたい。いろんな形があることをPRしてもらいたい。
芸北地区 G神楽団	北広島町で神楽を観光資源として活用することによって大勢の人が北広島町にお越しになることは大変良いことだとは思いますが。しかし、神楽は今どこに行っても見られる機会があり、ショーとしての要素が非常に高くなっています。北広島町の神楽を全面的に売り出すのであれば、もっと他の地域とは違う北広島町の神楽に対する趣を表現する必要があると思います。

芸北地区 H神楽団	あまりにも神楽の出演回数も多くなり、団員の負担が大きく、多くのイベントや大会になかなか上演が難しくならない程度の観光資源なら良いと思う。
--------------	--

1.1. 神楽団独自の公演など

神楽団独自の公演会（太刀納め・お盆公演など）の開催と行事名・主旨など	
春木神楽団	春木夏祭り
今田神楽団	お盆神楽競演大会（8月開催）
有田神楽団	八重東地区神楽発表会。東山神楽団と有田神楽団の団員は共に八重東小学校の卒業生なので年一度一緒に小学校の体育館で神楽発表会を行います。
山王神楽団	三社衣裳納がある（11/23）。若い人たちへ郷土文化・神楽の継承、自治区のレベル向上だと感じておりますが、一番に八王子を守る（自治区の祭りを、文化を）
本地中組 神楽団	泥落とし神楽（6月）：10数年前出演が少なかった時代、若い人たちの発表の場として始めた。本地三神楽団衣裳納め（11月23日）
上本地神楽団	本地三社合同衣裳納め・・・山王・本地中組・上本地神楽団合同で八王子神社の秋季大祭に合わせ地域の方に花など気にせず気軽に見てもらおうと開催。本地まちおこし組合の「よみがえりの水」フェスタと合同開催。
筏津神楽団	筏津ほたる祭り（6月第4土曜日）
枝之宮神楽団	年始の神迎え、行政区内の小祭り
大塚神楽団	泥落とし神楽、大塚盆踊り、臼杵神社礼祭、太刀納め
宮之庄神楽団	宮之庄地区泥落とし（6月）
雄鹿原上組 神楽団	2年に1回、地域の皆さんを招き太刀納め神楽を行っている。
小原神楽団	独自ではないが美和地区5神楽団による太刀納め
才乙神楽団	才乙旭神楽団太刀納め神楽
細見神楽団	細見神楽団太刀納め。地域の方へ感謝のためささやかな宴をひらく。
高野神楽団	美和太刀納め（美和地区5団体が結集し舞納めの行事）、盆神楽（芸北地区を中心としたお盆での競演大会）、やまゆり祭り（地元の特養での神楽出演）、敬老の日神楽（敬老会の席で神楽でおもてなし）、神楽研究発表大会（芸北地域での神楽発表で各団体の継承を促す大会）

1 2. 北広島町の神楽振興計画についての自由意見

神楽団の 所在地区	意 見
豊平	舞ロード定期公演等で北広島町全神楽団の演目を発信して行ったらと思う。
豊平	各神楽団の昔からの舞がなくなっている気がする。
豊平	行政から補助金情報や補助金申請方法など、情報、内容説明やアドバイスをお願いしたい。
豊平	秋祭りに奉納されていたのが競演から催事に行われるようになり、現在では年中鑑賞できるようになってきて神楽ファンも増えているが、上位の団体への加入者はいるが、新入団員がいない団体は苦しんでいる。
千代田	神楽を観光資源としてPRや活用されることは非常に良い。しかし、神楽の伝承に関しては、各神楽団の努力でのみ成り立っている。公的機関からの金銭的援助や団員への就職の斡旋、各事業所への働きかけ（休暇の取得や職場全体への理解等）を積極的に行っていただくことを熱望する。現状として就職先が無いために神楽を断念したり、仕事内容等により神楽に行くことが出来ず退団したり、休暇の取得が難しいために公演を辞退したりすることは珍しくない。神楽を利用するのであれば、神楽が伝承していけるためのバックアップ体制が不可欠である。
千代田	安芸高田市（美土里町）や島根県に負けなくらいの神楽観光のPR。北広島町へのリピーターの確保。
千代田	本町の神楽振興を考えた場合、道の駅舞ロードIC千代田の利活用を図るべきと考えます。「レストラン響」が開業し、月1回の神楽公演が企画されている状況です。しかしながら、本町の既存する神楽団数からいえば上演回数及び上演演目の物足りなさがあります。お隣の安芸高田市「神楽門前湯治村」から見れば尚更です。町としての「神楽」に対する意気込みの違いかもしれませんが、町及び神楽連絡協議会とさらなる協議がなされ企画を検討する必要があります。また、それぞれの神楽団が力を付けていく必要があるのではないかと考えます。そうした中で神楽団として協力できる範囲協力し、町の観光アピールに努めていき、更なる神楽の発展につながっていくと考えます。また、神楽振興を考えるためには、後継者の育成を考える必要があると思います。本神楽団は、

	昭和49年に保存伝承と子どもの健全なる育成及び地域の親睦を図ることを目的として子ども神楽団を発足しました。子ども神楽団を経て本体の神楽団に在籍している団員が多くいます。しかし、少子高齢化のため団員の減少が切実な問題にあるのも事実です。興行等に出演したいが仕事の都合がつかず出演が困難である神楽団は多いと感じます。そうした中で、この地域に残る神楽というすばらしい伝統芸能の保存伝承についてどう考えていくかが課題と感じています。
千代田	創設期は定かではありませんが、江戸時代後期と伝えられています。戦前までは石見神楽の流れをくむ舞を演じていましたが、戦後は新舞といわれる高田神楽を取り入れ今日まで至っています。過去には各地で開催の競演大会にも数多く出演し、優勝の栄に浴したことも数多くありますが、近年は都市化の流れの中で団員の確保が困難な状況にあります。現在団員16名、女性お参加しています。「紅葉狩」や「滝夜叉姫」など鬼女系の演目を得意としています。
千代田	神楽の支援活動をしていただくのは大変ありがたい。しかしながら開催時期や時間など要求が厳しい場合が少なくはない。
大朝	昨今、神楽は崩れて久しいと言われているが、今一度各団体が自分たちの足元を見直す行動が必要な時期に来ているのではないかな。
芸北	競演大会の出場者がマンネリになっているので、知名度の低い団体を出場させてはと思います。
芸北	舞台上で観る神楽だけではなく、神社で観るなど厳かで五感で感じることができる神楽や舞人や囃子方が観ている者と一体感が持てる神楽もPRしてもらいたい。
芸北	競演で観る神楽ばかりでなく、宮などで観る醍醐味を楽しんでもらえるような機会があってはどうかと思います。
芸北	新しい神楽を追求される神楽団もあれば、私どものように細々と地元の神楽を伝承している神楽団もあります。各地域、各神楽団によって考え方が異なると思いますし、方向性も違うと思いますが、全体が盛り上がるようになれば良いと思います。
芸北	色々と北広島町の各団体の神楽を見させて頂いている中で、昔の舞い方よりかなり変わった団体が目につくようになったが、こ

	<p>れからも見せる神楽でなく、昔ながらの伝統の神楽を進めて行きたいと思います。</p>
<p>芸北</p>	<p>地域文化に根差した取り組みが必要（町の取り組みとしては従来の共演大会のようなイベントは求めない）。</p> <p>神楽は農村における生活文化の一部。一年を通じ農業に勤しみ、秋にはその恵みに感謝の意を表すための儀式の一環として地元の宮にて神楽を奉納。神楽を通じた地域活性化を行うのであれば、神楽ファンの方々の参加型の形態を望む。町の取り組みとして従来の神楽大会のようなイベントは望まない。都市部の神楽ファンの方々には、演者側として関わってほしい。</p> <p>たとえば、練習日等について一定の神楽ファンの方々へ情報を流す仕組みを作る。→ 練習場に来られる方は来ていただければそれぞれの希望に合わせて練習への参加が出来る。</p> <p>（ただし、送迎は出来ないので自力で来ていただく。神楽を舞えるようになるには相当の練習量が必要なのでハードルが高すぎると思われる方のため奏楽の一員としての参加や裏方としての参加も可とする。練習だけの参加でも歓迎。従来行っている練習や発表の場への参加なので特に費用は発生しないと考えられる。）→ さらに発展形として→ 神楽は農業あつての神楽なので、草刈りなど地元農家の農業の参加（手伝い）も行う。→ 秋祭りには神楽団員（農業を手伝った農家）の家への「お呼ばれ」により宴会への参加。→ その晩の奉納神楽への参加までしていただければ違和感なく本来の神楽と地域文化への参加が出来る。→ 神楽による地元の活性化、神楽団の団員不足の解消などなど</p>

1.3. ヒアリング調査内容の要約

◇調査目的

先に実施した量的調査（アンケート）の結果を踏まえ、より神楽団の実情と意向に沿った神楽振興計画を策定するためヒアリングを実施しました。

◇調査時期および方法

平成25（2014）年10月～12月にかけて、北広島町内の6つの神楽団の代表者または事務局担当者と面談し、団名および氏名を公表しないことを条件に会話を録音しました。

神楽団の現状と課題について

- 少人数の団は、できる演目に限りがある。
- 団員不足で一人でも欠けると成立しない場合がある。
- 今はいいが、10年後どうなっているか不明。
- 子ども神楽をやっているが、スポーツや習い事等を理由に神楽を辞めていくことが多い。
- 今の子どもたちは、勉強、学習塾などで多忙。保護者も教育に対する意識が高い。
- 近年、呉や江田島、福山、東広島など広島県の南部や東部地域からの奉納依頼が多くなった。
- 最近、神楽大会のお客さんが減少している。スポンサーも減ってきている。競演大会の在り方を変えてく時期かもしれない。
- 競演大会での実績があまりないので、出演依頼が少ない。
- 団員の中には、競演大会などに出演して知名度を上げたいと考える者もいるが、そこまでのレベルには到達していない。
- 高齢者が多いため、地元の人でも夜の祭りには足が遠のいている。

神楽団の活動理念・方針、今後の予定

- 団の維持存続に務める。
- たかが神楽だが、この地域から神楽がなくなると他に何も残らない。
- 子どもたちに、神楽は楽しい、神楽をやりに故郷に帰りたい、と思わせるようにしたい。
- 神楽と仕事、家庭の両立は当たり前で、仕事のために出演できないのなら神楽をしなければいい。
- あまり厳しい縛りを設けたりすると若者が嫌気をさしてついてこない。団を存続させることを第一に考えているので、若手の意見も取り入れながらやっている。ただし、神楽の意味や基本の形は大切にしており、若手には神楽本来の意味や所作を理解してもらいたい。何でもありでは困る。
- 依頼者の中には、新舞の方が面白いしウケが良いという思いや前提があるので、神楽の多様性や旧舞の面白さを知ってもらうことも大切。

- 楽しく活動している。新舞に対する批判もあるが、変えてもいいとなると楽しいからやっていける。旧舞は、舞いそのものは変えない、という約束事がある。新舞は変えてもいいという感じ。

-

神楽団同士の連携

- 旧舞の場合、団員を融通しあうのは難しい。たとえ同じ地区の神楽団でも舞や囃子など全て違うので。
- 舞い方、衣裳、財産など全てが異なるため神楽団同士の合併は困難を伴う。
- 衣裳やお面の店の紹介や情報交換をしたり、二団体で奉納に出かけたりするなど、一世代前と比べて神楽団同士の横のつながりが出てきた。
- 秋祭りのとき、他の神楽団を呼んだりする。幕間に一演目舞ってもらうなどの交流をしている。楽屋も一緒に使うから勉強になる。

神楽の観光資源化について

- 要請があっても出演できないこともある。
- 神楽には、歴史や様々な形がある。それをひとつの「神楽」として一括りにして欲しくない。一括りにされると見た目の華やかな新舞に目が行きやすいので、「神楽」＝「新舞」というように勘違いされる可能性がある。
- 北広島町の神楽の多様性や真正性を発信し理解してもらえるよう努めて欲しい。（旧舞、新舞、スーパーカグラ、演目構成など）
- 神楽とは何か、誰が誰のためにやっているのかを今一度再考する必要。
- 北広島町らしさを全面に出す必要。
- 変化や批判を恐れず絶えず挑戦し続ける神楽もあるのが北広島町の神楽の魅力ではないか。今度は何をやってくれるのだろう、と楽しみにみてもらえるような神楽を北広島町の神楽団に期待したい。
- 衣裳を持っていない団もあるなど、各々事情が異なるため、同じような取り組みをすることは難しい。
- この度の「神楽マラソン」などの行事は、若手のモチベーションアップにもつながるし、地区外のお客さんに観てもらえる機会をいただいたので緊張感をもって練習に取り組めてよかった。
- 神楽は、一演目やるだけでも結構な人数が必要。町内には同じ勤め先に神楽をやっている人がたくさんいる。会社としては、同時に沢山の人に休まれると困ることもある。
- 地元でやるのがメインで、他所はプラスαと考えている。地元を支えられてきたので、地元でやるのを一番大切にしたい。

行政や神楽協議会に期待すること

- 助成金の情報や申請書類の書き方の指導
- 現在は、一昔前とは状況が変わってきている。互いに情報提供したり、出演を頼んだり、斡旋したりしている。神楽団同士の交流が盛んになって悩みの共有をし、助けあっていくことも大切ではないか。

- 若者へのPR
- 一度足を運んで貰う仕組みづくり
- オシャレでクールな農村文化としての神楽の構築
- 農山村交流プロジェクトのような取組の継続
- 宮神楽の見直し。舞手と観客が一体となるような感じのものにスポットを当てて欲しい。

IV. 課題と今後の施策

1. 調査結果からみた神楽団をとりまく社会環境・現状そして課題

○地区の活力低下

- 少子・高齢・人口減少、学校の統廃合

○後継者の不足

- 少子化、ライフスタイルの変化（職場、学校、塾...）
→ 後継者不足が団の活動運営に負の影響を及ぼしています。
→ 団員募集しているがあまり機能していません。

○活動方針

- 宮祭りでの奉納を第一とし、公演はプラスアルファという基本姿勢。
- 若者を中心に「新舞」を選好する傾向にあるが、「旧舞」人気も根強い。

○活動実態

- 普段の練習は、祭の直前～週3回以上まで様々。
- 上演回数は、年1回～50回まで様々。

○運営資金の獲得

- 主な収入源は、花代、寄付、公演料など

○運営経費

- 衣裳や道具の購入、修繕や交通費などの支出が大部分を占めています。
自前で衣裳を揃えることができないため、衣裳を借りて上演に出かける神楽団もあります。

○観光資源化の可能性

- 観光資源としてのニーズや大衆化に対応できる潜在的な能力は高く、可能性は十分あります。
- 観光化（観られること）によって、団員のモチベーションや技量が向上し、また、運営資金の調達ができる、というプラスの側面がある一方、伝統的な形態が失われるというマイナスの側面もあります。
- 若者を中心に「新舞」や「スーパー神楽」に人気が集まる傾向があり、北広島町における神楽の多様性の理解と尊重が課題となっています。
- 職場環境や学校関係行事などにより、出演要請に応えきれないという事態が発生しています。

○その他

- 他所の神楽団をライバル視するのではなく、“助けあう仲間”として捉える傾向があり、神楽団同士の交流や協力体制づくりの動きもあります。

2. 北広島町神楽振興計画の目的と施策

(1) 北広島町神楽振興計画の目的

郷土の宝である神楽文化の継承・繁栄と、神楽を通じた地域再生を目的として北広島町神楽振興計画を策定します。策定にあたっては、神楽団の存続・繁栄、神楽産業の振興という二つの上位目標を設定し、これらの目標を達成するための施策とします。

◇目 的 北広島町における神楽文化の継承・繁栄が地域の振興に寄与すること

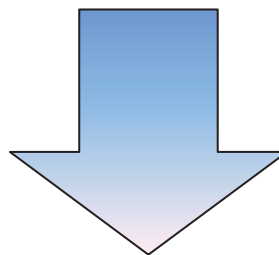
◇目 標 神楽団の存続・繁栄および神楽産業の振興

表 北広島町神楽振興計画における目的・目標・施策案

目的	目 標		施 策	事 業
神楽文化の継承・発展による地域再生	神楽団の 存続・繁栄	後継者の 育成・確 保	子ども神楽の 育成	○小中学校＝地域学としての神楽教育・体験プログラムの実施
			団員募集	○神楽団のプロフィールや団員募集状況などを発信
		活動環境 の向上・ 動機付与	町内企業への理 解促進	○「ふるさと神楽応援団」の企業グループの可能性調査
			運営資金調達 のための支援	○助成金等の情報提供・申請書作成支援 ○神楽支援ファンド・ふるさと納税制度を活用した神楽振興の検討
			上演機会の提供 神楽団相互交流	○道の駅などでの定期公演の開催 ○各地域の神楽団が一同に会する大会 ○神楽団員向けの神楽講座など研修会の開催
		神楽産業の 振興	観光資源 化大衆化	情報発信
	ファンの拡大			○神楽体験教室＝青少年の神楽ファン育成と将来の担い手の育成 ○旅行者・ファンクラブ・大学生との連携など ○外国人旅行者へ文化体験提供 ○神楽イベント送客支援
	都市－農村交流			○農山村交流促進事業 ○姉妹都市交流など
	平日等の公演依頼に対応できる組織づくり			○神楽団の連携による合同チーム結成の可能性調査

神楽情報発信拠点施設(神楽情報館)の検討

神楽情報館= 神楽情報センター+ 神楽サロン
(団員や神楽ファンが集う場)+ 体験講座
神楽関連情報の一元管理



神楽があることで、地域のコミュニティが維持でき、子どもたちや、そこに暮らしている人々が、故郷に自信と誇りが持てる北広島町の実現

3. 目標と施策

(1) 神楽団の存続・繁栄

神楽団の存続・繁栄には、後継者の確保・育成に加え、神楽団員の活動しやすい環境整備や活動におけるモチベーションの向上が必要です。

① 後継者の確保・育成

ア. 子ども神楽育成支援

現在、地区内において後継者を確保し育成していくことは、子どもの減少や価値観・ライフスタイルの変化によって非常に困難な状況になっています。各々神楽団は、子ども神楽団をつくり指導に当たったり、団員募集を行ったりするなど様々な工夫を凝らしていますが、その成果は芳しくなく、より効果的な対策が必要です。

そこで、学校教育現場における地元学として神楽の学習・体験を取り入れる機会を増やし、子ども神楽を運営している団体に支援をするなどの子ども神楽の育成支援を検討します。将来の担い手に直結する子ども神楽の育成には、時間と費用がかかりますが、一定の効果が期待されます。たとえ一時期、地域や神楽から離れてしまうことがあったとしても、子どもの頃に身につけた技能が神楽を再開する際に役立つからです。また、現在の神楽ファンの多くが子どもの頃に神楽を観て（舞って）育った世代が多いことから、将来の担い手やファンづくりとして、子どもへの投資が必要です。

イ. 団員募集支援

神楽団は、これまでいわゆる氏子を中心とする地域出身者で構成されてきましたが、急速な少子高齢化の進展によって、地域出身者のみで神楽団を運営することは困難な状況です。そのため神楽団の存続のためには地区外者の力を借りる必要があります。すでに神楽団の多くが地区外者を受け入れています。人材不足に悩むところが少なくありません。アンケートおよびヒアリング調査によると、神楽団の多くは対外的情報発信があまり得意でないことが明らかになっており、神楽に関心を持つ層に情報がきちんと行き届いていない可能性があります。このような課題に対応するために、求人募集案内支援が必要と考えます。例えば、各神楽団のプロフィールと求人募集状況を情報発信することによって、入団希望者が増えることが期待されます。

② 活動環境の向上と動機付与

ア. 町内企業への理解促進

神楽文化の継承・発展のためには、神楽団の活動環境の改善と団員のモチベーション向上が今まで以上に必要となります。神楽団は、いわゆるアマチュア団体であるため、町が神楽の観光資源化に取り組む場合、その活動を巡っては家族や職場（企業）の理解と支援が必要です。これまで神楽における企業の支援は、神楽大会等イベントにおける協賛金・寄付金などの間接的なものが多く、神楽団への直接的支援はほとんど行われていませんでした。そこで、町の神楽文化の継承・発展のための町内企業の支援を含めた町ぐるみでの神楽の応援体制の構築が必要と考えます。例えば、**「ふるさと神楽応援団」などの応援グループを設立**し、上演活動への理解と環境改善を目指します。

イ. 運営資金調達のための支援

また、神楽団の運営においては、衣裳や道具の購入・修繕、交通費など多額の費用が必要で、氏子からの寄付や上演報酬だけでは限界があります。そのため財団・民間等の助成金を衣裳購入に充てている神楽団もありますが、調査の結果、大多数の神楽団はそうした情報に疎かったり、申請書類作成に難があったりするなど、十分に活用できていないのが実態です。こうした助成金等獲得における情報・ノウハウの格差を解消するため、行政による**情報提供や申請書類作成のための支援**が必要です。

ウ. 幅広い人々からの寄付獲得

しかし、それだけでは安定した資金調達は困難です。近年は、プロジェクトごとに多くの人数から少しずつ寄付を集め、事業遂行のための資金を調達するクラウドファンディングの手法が主流になってきています。北広島町の場合、全国に故郷（北広島町）出身者や神楽ファンが多くいることから、彼ら（町外在住者）の力を借りることが効率的であると考えられます。そこで、**神楽支援ファンド**の設立方法について調査研究を行います。

また、**ふるさと納税制度を活用した神楽振興プロジェクト**等を通じて幅広く寄付を集めることについて調査研究を行います。

例えば、埼玉県宮代町のふるさと納税制度では、自らが応援したい事業や分野を選び寄付をすることができる仕組みを採用しています。ふるさと納税を呼びかけるホームページには、プロジェクトに必要な資金や目的、利用方法など、明確なビジョンが示されており、寄付者には様々なお礼や特典が与えられるようになっています。また、北海道の東川町では、「ひがしかわ株主制度」という、東川町を応援する人が投資（寄付）することによって株主となり、まちづくりに参加する制度を設けている。投資（寄付）の対象となる事業を明確化（オリンピック選手育成事業や水と環境を守る森づくり事業など）し、株主優

待（交通費、宿泊費の補助など）を設けることによって、町外ファン（ふるさと納税者）を増やしています。

このような取り組みは、神楽団の運営資金調達や子ども神楽団の育成だけでなく、神楽ファンの拡大にもつながると期待されます。

エ. ふるさと納税制度を活用した神楽振興プロジェクト

① 北広島町で「神楽振興」を目的とした、ふるさと納税の呼びかけ。

② 寄付で集まった資金を基に神楽振興のための事業を遂行

③ 事業の経過や結果の公表

④ 寄付者へのお礼（特典）

・ 神楽面や笛などグッズのプレゼント

・ 神楽ディナーショーチケット

・ 神楽大会招待券（宿泊割引付き）など

⇒ これらの商品を買うことによって、神楽産業の振興になります。

オ. 上演機会の提供

「観られること」による団員のモチベーション・技能の向上策として、道の駅「舞ロード」などにおいて上演機会を確保します。また、北広島町合併10周年記念事業として、平成26年度実施し好評を博した神楽マラソンの趣旨を踏まえた神楽大会の継続を検討します。

農山村交流プロジェクトや姉妹都市交流などの農山村体験推進事業や国際交流などの**交流事業の推進**についても取り組みを進めます。

カ. 研修会の開催(相互交流・理解)

「神楽とは何か?」「神楽を舞う意味は何か?」「今後神楽はどこに向かうのか?」等、神楽団員や神楽ファンが知りたい知識や情報についての勉強会を開催することも、神楽を舞う者たちの意識の向上に繋がることから、研修会を開催します。

(2) 神楽産業の振興

神楽文化の継承・繁栄には、神楽団の存続・繁栄とともに、神楽団と相互依存関係にある神楽関連産業の振興が不可欠です。

神楽産業に従事する企業や団体、大会主催者のニーズ調査を実施し、活動しやすい環境の整備が重要となります。

① 観光資源化・大衆化

神楽文化の継承が地域再生に結びつくためには、神楽団だけでなく、神楽に関連する産業の活性化が不可欠です。現在、北広島町の神楽は、一年を通じて大小さまざまなイベント神楽が県北および広島市内を中心に開催されるなど、人気を博しています。しかし、熱心な神楽ファンにおいては、客層の固定化と減

少がみられることから、パイ（市場規模）は縮小傾向にあります。そのため、観客（神楽ファン）を将来にわたって確保していくには、神楽を更に観光商品化し、「ビギナーファン」から「熱心なファン」へ移行する、という流れを造成することが効果的であると考えます。

北広島町の神楽は、一度観てもらえさえすれば必ず好きになる、と関係者が証言するほど芸能としての潜在的な能力は高いものの、これまで様々な事情もあり全国化（大衆化）するまでには至ってきませんでした。

ア. 情報発信・ファンの拡大

今後は、大会主催者等との連携強化、自治体枠を超えた広域的な連携による情報発信強化、教育機関や市民団体（NPO や神楽のファンクラブ等）との連携による情報発信など、より効果的な情報発信体制を構築し、神楽ファンの拡大を図って行きます。

イ. 外国人観光客誘致に向けた支援

近年、本町の外国人観光客数は官民の連携した誘客促進に向けた取り組みにより増加傾向にあります。外国人観光客は、当町における人と人との触れ合いや農村文化に触れ体験を好む傾向があります。特に神楽体験については、平成 26 年度において実施したモニターツアーにおいて大変に好評であったことから、引き続き外国人の神楽体験について継続的に支援を行います。

ウ. 神楽大会への誘客促進

町内で開催される神楽大会への誘客促進に向けた取り組みを関係者及び関係機関と連携し進め、既存の神楽ファンの回遊性高めると共に新たな神楽ファンの開拓を進めます。

エ. 上演依頼への対応

神楽の観光資源化により、平日の神楽公演依頼が増加傾向にありますが、それに対応することが、現状では不可能です。

平日の公演依頼にも対応できる、神楽団の連携による合同チームの結成などの可能性を模索する事も必要です。

（3）神楽文化による社会関係資本醸成と住民の生活の質向上

少子高齢化と人口減少が進展する北広島町において、神楽が継承・発展していくためには、住民の生活基盤の安定化が不可欠であり、そのために町の文化資源である神楽を観光活用し産業活性化を図ることは有用であると考えられます。ただし、神楽はこの地域の生活の場に根付いたシンボル ーとくに祭における宮神楽は、地域住民の社会的統合機能を持つー であり、住民の生きがいであり、コミュニケーション手段でもあります。ゆえに、神楽を通じた地域振興を考える場合、経済効果も重要ですが、神楽の持つ社会的機能を活用し地域のソーシャル・キャピタル（社会関係資本）を醸成することも住民の QOL（生活の質）

向上において有効です。しかし、高齢化の進展などに伴い、夜間に開催される宮祭りや神楽大会に高齢者が参加しにくいという状況が発生しており、このような状況が長引けば神楽の持つ社会的役割が機能不全に陥る可能性があります。これらの対策として、宮祭りの昼間開催や高齢者の送迎による祭り参加支援などの可能性について調査研究します。

(4) 神楽情報発信拠点施設の整備

北広島町は、県内でも有数の神楽団が活動する神楽どころとして、地域振興や、観光資源として高い潜在的な能力や可能性を有しています。しかし、神楽を楽しみに訪れる観光客の大半は、神楽に関する情報をどこに行けば入手できるのか、情報の発信がどこでおこなわれているのか分からないと答えています。

※もちろん北広島町観光協会や商工観光課では神楽イベントの情報は提供していますが、いわゆる社会教育の視点を踏まえた施設はありません。

上記の目標と施策を実施する調整機能の役割も付加した、神楽の情報発信拠点施設、北広島町の神楽はもとより、ひろしま神楽の全てが分かるような施設、神楽の展示や、神楽体験講座の開催、神楽ファンや団員のたまり場的な要素も加味した、「神楽情報センター(仮称)」など、北広島町の神楽振興施策の拠点施設の必要性及び設置の可能性について調査研究を行います。

一北広島町神楽振興計画一

平成27（2015）年2月
広島県北広島町